

川づくり 清瀬の会

会誌 第17号 2012年 5月発行

発行者 宮澤とよ美 編集者 会誌編集委員会 連絡先 042-491-3616



豊かなみどりを川面に映して蛇行する柳瀬川（柳瀬川・空堀川新合流点付近）

目 次

柳瀬川・空堀川新合流点付近の河川工事いよいよ大詰めです	(宮澤とよ美)	1
清瀬の「母なる川」柳瀬川よ永遠なれ	(小西一午)	3
河川と自然シリーズ⑤コウゾリナ(髮剃菜)キク科	(田中くに子)	5
空堀川の清掃でストレス解消!	(小西美香)	6
水辺の自然を生かした川づくり 2012年1月28日・島谷幸宏教授 (パルシステム東京支援講座)	(金内彰)	6
雑学の2回目です	(田島通夫)	9
放射能と私(放射能についての講演会に参加して)	(木村芳信)	10
2012年度 新河岸川流域フォーラムに参加して	(大谷恒子)	12
1,000 m ² の空き地に樹木苗を植栽	(宮澤とよ美)	14
植樹の感想	(清瀬第四中学校生徒)	16
第14回定例総会の報告	(大谷郁夫)	17
2012年度 事業計画		18
2012年度 活動予定		19
2011年度 活動記録(1月~3月)		20
事務局だより		21
新会員紹介・ご寄付のお礼・行事予定のお知らせ		22
編集後記		22



寒い小雨の中、植栽したクヌギ、コナラ等が芽吹きました
空堀川・三郷橋空き地(建物は明治薬科大学)

柳瀬川・空堀川新合流点付近の河川工事いよいよ大詰めです

宮澤 とよ美

いよいよ新合流点の設計段階に入りました。旧川となる柳瀬川の現状は、都市河川には稀な自然と歴史を兼ね備えた貴重な場所です。失えば必ず悔いを残します。新合流点計画が始まり即活動を始め、ここまで随分長い道のりのように思います。私たちの思いがきちんと生かされる為には安全性と環境共に、河川管理者・地域住民とのよい意味での合意形成が必要です。その為に川づくりの第一人者、吉村伸一先生にご指導を仰ぎ、又、最終つめとして清瀬の自然環境、空堀川・柳瀬川をよくご存知の島谷幸宏先生にご講演をお願いいたしました。先生はいつの場合であっても一般論のようでありながら鋭く今課題になっていることの対応策を、国交省で通達を出している技術基準に則ってご講演くださいます。私たちは、よい結果を得るために、国・都・河川管理者・市行政・コンサル・河川に関心のある市民の皆様と共に学ぶことの重要性は身に染み付いています。

平成 23 年 3 月の地元懇談会最終日には、河川管理者が提案された複断面構造はそのままに、座長であります土屋教授が水理模型実験を提案され、そこに大きな望みを託して、当会はその後の活動を続けてまいりました。

23 年度、北多摩北部建設事務所第二課課長及び設計係長がお変わりになり、河畔林保護に大きく方向転換をして下さいました。同時に水理模型実験の目的も、＜残された自然環境(天然護岸と河畔林)を可能な限り生かした設計＞と明確になりました。ここに来るまで、星野前市長・渋谷市長を初め皆様のご指導、又、県土木の部長様・課長様と快くお話し合いの出来ましたことなど、お世話になりました皆様の期待に添う、いい川となりますよう願っています。

◆水理模型実験を見学いたしました

水理実験には莫大なお金が掛かります。この財政状況で実現するだろうか？ 誰でも持つ疑問でした。機会ある毎に水理実験はいつ頃に？ と伺いながらとうとうその日が来ました。水理実験に先がけ島谷幸宏九州大学大学院教授から、「四国で懇談会座長土屋教授とお会いし話し合いをしましたよ」とのご連絡がありました。実験会場で座長にお目にかかると真っ先にそのお話をして下さいました。



水理模型実験現場（つくば市）

<見学第1回は、地元懇談会メンバー3月12日(月) 第2回は、柳瀬川・空堀川流域連絡会 3月14日(水) 当会会員は14日参加>

12日東所沢から北々建のバスで筑波にある(株)東京建設コンサルタント実験センターに直行。バスでの同行者5名。総勢約30名で昼食の後13:00から見学説明が始まりました。

実験センターにはコンクリートで1/10の模型が作られていました。2千万円を掛けた大掛かりな構造物です。左岸の護岸斜面も現状を再現、河畔林の数も棒が立ててあります。新河川の右岸は直に護岸を立て空堀川合流点に向けて直線河道です。



水理実験中の様子（左側の鉄棒が河畔林）

気になりますのは、旧川への流入口右岸を大きく河川内に張り出し、洪水時の流量を絞るために1.3m巾

に狭めてあります。当然この部分の河積は極端に小さく、通常の流れをも導くことの困難さが目に見えます。この模型構造には新川入り口に何も堰はなく、落差工の引水する強い力に、落差工で大きく水は盛り上がりながらひたすら真っ直ぐに空堀川に向けて流れ下ります。

まず現況河道の最大流量 $80 \text{ m}^3/\text{s}$ を流し、次に時間雨量50mm時の最大流量 $110 \text{ m}^3/\text{s}$ を流す。そのほとんどが直進し、強く分流護岸の出っ張りにぶつかりながら流下し、10%ほどが旧川に流れ込みました。このぶつかりは跳ね返り、当然左岸天然護岸にも大きく影響します。

北々建西村課長に、旧川への流入口を狭めていることについて何うと、「模型の分流断面は、これからの検討課題であり、修正を加えながら実験を重ねて行きます」とのことでした。又、新川の河床勾配1.3mは、直壁の落差工になっていて、これについても、徐々に生き物の連続性を考え工夫をして行きましようとのことでした。

模型実験を見学して、複断面から単断面に設計変更、最大限自然を生かし治水と調和した川づくりに向かって、このようなご苦勞を下さいます河川管理者に感謝したいと思います。

これから西村課長のお話のように、旧川へ常時の流量 $0.4\sim 0.6 \text{ m}^3/\text{s}$ 確保のために、コンクリートではなく自然石などによる環境にあった新川入り口への堰が工夫されたら有難い。どう工夫されるのか、模型での最終見学は許されてはいない。提案はこれが最後ではありません、よい川が残せるよう、がんばって行きましよう。

現合流点の落差工も26年度（前号で24年度と記載、お詫びして訂正）魚道が設置されます。清瀬橋付近の改修工事も、旧清瀬橋上・下流に向けての整備へと進んでゆきます。

清瀬の「母なる川」柳瀬川よ永遠なれ

小西 一午

清瀬の北側を西から東に貫流している柳瀬川は、狭山丘陵北部に水源をもち清瀬市内ではいくつかの湧水を含ませながら流れをつくる空堀川の水を中里地区で、更に所沢市を流れてくる東川も下宿でそれぞれ合流しながら新河岸川に落ち、更に武蔵野台地の末端をかすめて荒川・隅田川と一体となって東京湾に注いでいる。

その柳瀬川は流長 26.8km、その谷幅は下流に向かうほど大きくなり中里下田付近で約 500m、下宿付近で約 800m、新河岸川との合流点付近で約 1000mと広がっており現在の水量には不相応の広さと思われるが、近くの不老川・黒目川とともに谷筋を上流に延長すると青梅に集まるところから、柳瀬川はある時期、古多摩川の主流であったとされている。武蔵野台地は富士山の噴火で降り積もったものが風化して俗に赤土と呼ばれているが柳瀬川の流れて削りとられて露出したハケが中里四丁目付近の川べり左岸に「赤バツケ」として現存している。



(清瀬橋から空堀川との現合流点を望む)



改修進む中里4丁目付近（後方の崖が「赤バツケ」）

柳瀬川から用水を引き、清瀬では唯一の水田耕作地帯をもつ下宿、中里・野塩で水稻の作付けをしており、それで村人の飢えをしのいでいたほか新河岸川舟運などによって幕府の浅草御蔵まで運ばれ食糧不足にあえいでいた江戸市民の糊口をもしのいでいたのである。柳瀬川はまさに母なる川として村人が活用し大事に守られてきていたのである。

その昔の清瀬の田園風景は、小川・水車小屋もありレンゲ畑あり、小川ではドジョウ・フナ・シジミ捕り、田の畔ではヨモギ摘みなどできる別天地のようなところであった。ところが時代が変わり昭和 30~50 年代の高度成長期に入り、村にも都市化の波がおしよせ、それにつれて人間の住環境も脅かされ、川の汚染も深刻になってきた。すなわち急増した家庭の洗剤のアワが川面を飛びかい、事業所の排水が川に流れ込みドブ川のような悪臭を放つまでになってきたのである。そうした河川の浄化対策として河川行政当局が流域の公共下水処理場を下宿に完成させたり、川づくりの会を主軸とする市民活動も活発になり、ついに河川の汚染が解消されるようになってきた。その間に柳瀬川

に沿ってあった田が埋められ住宅団地になっていく。昭和 37 年に野塩団地ができたのをはじめにわずか 10 年ほどのうちに中里団地・下宿の台田団地が完成し柳瀬川流域の様相が一変してゆく。

柳瀬川流域（空堀川を含む）は汚染対策とともに水害対策も行われ、河川の拡幅・橋の架け替えなどで川筋の自然景観も大きく変わってきた。とりわけ金山橋を中心とした区域では昭和 60 年に金山緑地公園がオープンしたのに次いで平成 6 年には金山調節池ができ周辺が一変した。調節池付近では清流だけに集まる動く宝石と云われる「カワセミ」も棲みつき、柳瀬川の流れも河川行政当局の動きに呼応する



金山橋から桜咲く台田方面を望む

る川づくり会の努力もあり、まさに清き流れをとりもどしつつある。川面を見ると川底の小石も透けて見え溪谷か谷川と見紛うような清冽な流れになっていてそこにはコイやフナなどにまじって清流にしか生息しないアユの姿さえも散見できるようになった。

しかしながら問題が一つある。河川の清浄評価のため公害対策基本法に基づき河川環境基準が昭和 46 年に環境庁から示された。その河川清浄基準類型指定（A AからA～Eまで 6 ランク）において柳瀬川はあのドブ川当時の最下位の E 類型のままに放置されていることである。川づくり会ほか市民の努力でこれほどの清き流れになっているのである。利用目的の適応性に照らした各種基準値をみても B 悪くても C ランクに類型を上げることが至当と思われる。行政当局をプッシュして類型指定をアップさせ、子供たちも水遊びしている見た目どおりの清流の真の評価がなされることを切望したい。



中里保存林に咲くカタクリの花

コウゾリナ（髮剃菜） キク科

田中 くに子

山地の草地や道ばたなどに普通に生える 2 年草。
柳瀬川の護岸工事などで、暫くはこの花の姿をあまり見かけなくなっていたが、この所柳瀬川の堤防や草原で多く見られるようになった。

初夏の野には、タンポポやノゲシなど黄色の花が目立ちますが、その中であって茎は高さ 60~100 cm、葉とともに、赤褐色したトゲのような剛毛が生え、ひどくざらざらするので見分け易い。

髮剃・・・剛毛がざらついて手が切れ
そうなのをカミソリにたとえたもの。

茎の下部の方が太く長い剛毛が密につく
剛毛をルーペで見ると、先がいかりのよ
うに分かれていて他に類がない。

茎の上方で枝を分け、径 2~2.5 cm の
黄色い頭花をつけ、総苞はやや黒っぽい
緑色。頭花はタンポポのように舌状花の
み。根生葉は花期には枯れる。茎のなか
程の葉は長さ 4~12 cm 倒被針形で、茎
部は次第に細まる。

この花の中には、茎が合着したような
、板状に幅広いものが結構見られる。幅
が 2~3 cm 位もあり頭花も 2 本分位の数
がついている。

近年、旭ヶ丘団地の一棟の芝生にこのコウゾリナがたくさん見られるが、芝刈りの前に
早く咲くよう祈りながらその前を通っている。

花期 5 月~10 月



(コウゾリナの花と茎)

空堀川の清掃でストレス解消！

小西 美香

現在、小学校 5 年生の次女と 2 回参加しました。

1 回目は夏。背丈ほどあるブタクサがわんさと茂り、しかも茎の太さも半端ではありません。次女は学校の総合学習や理科の授業でよく来ているらしく、慣れた足取りでブタクサを抜きながらどんどん先へ進んでいきます。私も負けじと、教えていただいた葉の形を目安になんとか探していきました。気づくと次から次へと夢中で抜いている自分がいました。久しぶりに一緒に来た次女のことを忘れるほど無心に、ただひたすら葉の形を探していきました。幼いころ、帰宅してからも残像が浮かぶほど夢中でせり摘みをしたことを思い出しました。そうしているうちに、斜面から伸びた太い茎を抜いた瞬間、川にしりもちをつき、次女と大笑いしました。気持ちのいい汗をかき、久々の解放感と爽快感、当初の義務的な気持ちはどこかにいってしまいました。



(ごみ拾い中)

2 回目は冬。草はほとんどなく、ゴミ拾いが中心でした。おそらく台風時の増水で対岸まで流されてきたのではないかとと思われる、大量の吸殻が枯草の中にとろどろありました。捨てられた当初は川岸にあっても、結局こういう形で川の水を汚してしまうことを実感しました。この日も、私はいつの間にか、吸殻探しに夢中になっていました。吸殻が潜んでいそうな枯草を探し、見つけるとなんだか宝を探し当てたようなうれしさでした。次女のこと寒さも忘れてまた夢中になっていました。次女も、動き回った爽快感と、ちょっと役に立てたかも・・・

という満足感からか、とってもいい表情をしていました。きっとこれからも一緒に参加すると思います。

水辺の自然を生かした川づくり 2012 年 1 月 28 日 島谷幸宏教授

(パルシステム東京支援講座)

金内 彰

1 月 28 日 (土) 午前 8 時 30 分、島谷幸宏教授が清瀬駅に到着しました。当日の天候は久しぶりの晴れ、中澤弘行清瀬市副市長を始め関係者がお迎えし、「空堀川・柳瀬川合流点」の視察をされました。

島谷氏の現職は九州大学大学院教授。元国土交通省土木研究所河川環境研究室長で、

現在は「多自然川づくり研究会座長」で、昨年の大震災より「河川海岸構造物の復旧時の景観検討会座長」としてご活躍なさっております。

川づくり・清瀬の会と島谷先生との関係は、先生が建設省の研究所に勤務時代よりご指導いただいております。

午前 10 時中澤副市長の挨拶から講演会が始まりました。

本日の講義は「水辺の自然を生かした川づく



(くるまや橋より下流を望む)

り」～誰もが親しめる河川を求めて～

講義の内容は次のとおりです。

■川づくりの資格（課題）は(1)治水・利水と環境の一体化処理（土地利用を含めた国土の再編）が大事であるが、(2)環境の保全（一つ一つ川の特徴を尊重した川づくり）が難しい。

(3)技術者の資質向上（美しさ、自然への関心）を持つことと、(4)住民参加、合意形成を基本とすることが重要である。

■市民活動、行政スタイルとしては行政批判型から共働型へ、説明型から合意形成・住民参加型へ変化している。

■合意形成の時代として現代の大きな課題としての合意形成は、試行錯誤の時代から実践の時代になっている。

自由な雰囲気が集まるということ、知ること、必要な訓練に飛び込んでみるこ

となるべく早い段階から合意形成がなされるべきである。

■合意形成とは

あることをなす時に意見の異なる人々が協力を誓い合うこと。あるいは邪魔しないこと。(批判を基本におかない) 合意形成とは、納得・信頼・妥協であるし、尊重・敬意・協力で、とりあえず譲歩・先延ばし・貸し借りをすることである。昔の水に関する合意形成は、話し合うことや試すことによりルール化し、公平(すべてが一緒ということではない)・公正に行ってきた。

■「いい川づくり」とはなにか

川の自然の営みに基づいた生物の営みや歴史文化による、美しさを尊重した川づくり。基本は「川の要所」を保全し川の営みを理解、許容し美しさを損なわないことである。



(講演中の島谷幸宏教授)

地域との合意と地域と共に作り上げることが基本で
(1)要所の保全、(2)川を自由化、(3)つながりをつくり
(4)計画時に模型を利用することである。

■ いい川づくりとは・・・1

(1)河川構造複雑化による、①曲がった川、②川底が
広い川、③断面が変化する川である。

(2)定規断面をやめる→自然な横断形状が大事で、

①川底を平らにしない、②水際を固定しない、
③大きな石を取り除かない、④むやみに落差を入れ
ない、⑤川辺に樹林を大事にすることである。



(大勢の方が集まりました)

■ いい川づくりとは・・・2

(1)河川連続性の確保。

(2)縦断方向：むやみに床止めを入れない。やむをえない場合、魚道の設置。

(3)横断方向：支川、用水路の連続性の確保。

(4)周辺の樹林帯、水防林、山付部旧河道との連続性の確保が大事である。

■ いい川づくりとは・・・3

(1)河川が変化することを許容する。

(2)河川風景を豊かにし、川を軸とする空間構造を大切にする。緩やかな曲がりや河
岸の樹林を大切にする。

(3)周辺の景色とのつながりを大切にするとは、

①川と周辺の自然、②川と道、③川と農地、④川と街 などである。

■ いい川づくりとはいえないもの

(1)保全できるものをつぶす。

(2)川底を平らにする。

(3)川を真っ直ぐにする。

(4)水際を単調にする。

(5)連続性を絶ったもの。(支川、堰)

(6)川を浅くする。

(7)石を取り除くである。

■ 望ましいことは、川岸は固めない(控えで)。樹林を切らない。樹林を植えること
である。計画規模の決定→流量の決定→川の良いところ、悪いところを見つける→平面、
断面を決める→何を残すか、どのような空間形態にするか、洪水に対して安全化試行
錯誤する→現場で微地形を見ながら施行する→手直しすることである。

■ 川の良いところをどうやって見抜くかは、良いところを保全するのが基本である。

①川を歩く→良いところを見つける。②人に聞く→良いところを見つける。

③専門家と歩くのが有効→平面図に落とすことが大事だ。

■まとめとして、

- (1)治水と環境を一体的処理すること。(2)川の特徴を生かした川づくりを行うこと。
- (3)流域の思想、氾濫原の思想や土地のあり方知ること。(遊水地、霞堤、横堤、水防林など)
- (4)河道計画のあり方としては、現状の川の流れや土砂のたまり方、樹林の生え方から川の固定化を読み平面形状、横断形式は現場の状況に基づき個々に考え、定規を使わない方法が大事である。

以上が島谷教授の講演内容の抜粋です。講演内容には、日本国内の模範となる川づくりの状況や海外の代表的な川づくりのお話がありましたが割愛いたしました。

いい川づくりの第一人者である島谷教授の講演は、充実した内容のなかにも理解しやすく、80名の皆様が熱心に聴講しておられました。

最後の質疑応答では、活発な質問が多数出ました。福岡への出発時間の関係で途中終了したことは誠に残念でした。

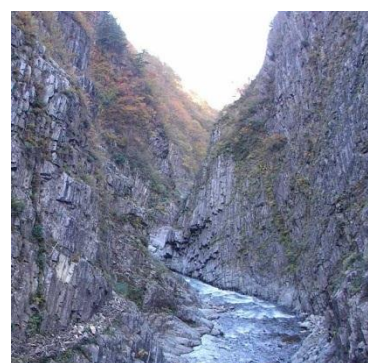
雑学の2回目です

田島 通夫

旅行シーズンも終わりに近づいています。今年はどこかへお出かけになりましたか。これから夏のシーズンに向かって日本三大〇〇を訪ねる紙上の旅に出ましょう。夏と云えば水のシーズン。水に係わる所を訪ねましょう。

先ず 日本三大溪(峽)谷から

- ・新潟県十日町の清津溪谷
雄大な岩礁と清流からなる日本有数の景勝地。
- ・富山県の黒部峡谷
黒四ダムでも有名です。
- ・三重県の大杉峡谷
その魅力はなんととっても数々の滝と独特の切り立った断崖「くら」と呼ばれる地形です。



(清津溪谷)

次に 日本三大名瀑は

- ・栃木県の華厳の滝(落差97m・幅7m)
中禅寺湖を水源とする豪快な滝。日光には美しい滝が他に、竜頭の滝・湯滝・霧降の滝・裏見の滝などがあります。
- ・茨城県の袋田の滝
落差120m・幅73mの雄大な滝。冬の全面凍結も見たいものです。
- ・和歌山県の那智の滝



(華厳の滝)

落差日本一（133m）。地域性か何か神秘的な印象です。

次は 日本三大清流の旅

- ・ 静岡県の柿田川
富士山の伏流水。
- ・ 岐阜県の長良川
158 km、夏の風物詩、鶺鴒で有名。
- ・ 高知県の四万十川
196 km、最後の清流と言われている。



(柿田川)

次は 地下にもぐって、涼しい夏をどうぞ

日本三大鍾乳洞とは

- ・ 岩手県にある龍泉洞。(りゅうせんだう)
綺麗な地底湖がある鍾乳洞。
- ・ 山口県の秋芳洞。(あきよしどう)
長さ 10 km、百枚皿、黄金柱などの沢山の綺麗な鍾乳石があります。
- ・ 高知県の龍河洞。(りゅうがどう)
長さおよそ 4 km、弥生時代の洞窟遺跡がある。



(龍泉洞)

今回はこの辺で終わります。・・・と言うよりネタ切れです。

梅雨の6月も間近です。体調を崩し易い時期、それが明けると灼熱地獄の夏が来ます。

少々憂うつですね。夏負けしないで下さい。

※掲載写真はインターネットより

放射能と私（放射能についての講演会に参加して）

木村 芳信

放射能と言えば、怖い、なぜならば目に見えない。やたら難しい単位（ベクレル、マイクロシーベルト）が出てくる。それに α 線、 β 線、 γ 線で何だろう。放射能と放射線とは？もう分からなくなる。しかしこれを理解しなければ、福島原発事故がどう私達に影響するのか理解できない。怖がっているのは、前には進めない。私は2月に入って放射能についての講演会に2回参加させていただく機会を得た。これで得た知識、感じた事を書きます。

今まで、放射能といえば自然界に存在するラジウム、釷、ウラン位しか頭になかった。私はラ

ジウム鉱石を使った岩盤浴に健康のために年数回通っている（ほんとはもっと行きたいが）のどが痛いときなどに弱い（放射線）ラジウム鉱石を寝るときに首に巻き付けると翌朝痛みが取れている？。岩盤浴では入浴に時間制限がある（1回30分1日当たり3回まで）。それが福島では、岩盤浴より強い放射線を24時間浴びていても健康に害は無いと専門家の方が言っている。（岩盤浴でも危ないという専門家もいるのに）にわかに信じられない。これで本当に健康に害はないのだろうか。

私はラジウム鉱石を測るためアメリカ製の測定器（インスペクター アラート）を購入した。講演会を聞いていて、我々東京都民は福島より浜岡原発の方がより危険とのお話があった。浜岡で福島と同様な事故があれば東京都民（静岡、神奈川等も含む）は避難をしなければならない。都市機能は壊滅する。在職中は、安全業務も担当していたがその中で言えることは安全には絶対安全の文字は存在しない。安全に無尽蔵に投資する経営者はいない。最低限の投資で事故の起きる確率を下げる事ぐらいしかしない。

先日テレビで世界が一番危惧しているのは福島原発4号機（地震と爆発でボロボロ）の燃料プールが地震で壊れたら東京は、壊滅的被害になる。その影響は、はかり知れないとの話があった。正確な情報を我々は得ているのだろうか。この様な危険で不確かな原発をこの地震国の狭い国土に必要であろうか。いままでも日本人の英知で国難を乗り越えてきた今回は自然エネルギーに活路を見いだし世界のリーダーシップになるべきだ。皆さんはどう考えますか。

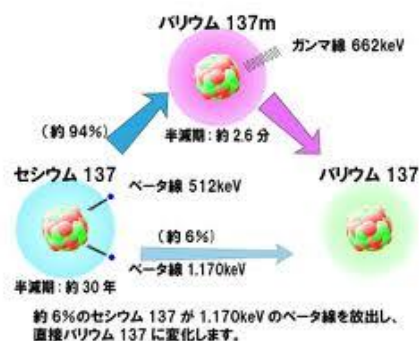
セシウム

セシウム（Cs）という元素は、原子番号 55 番の元素です。以下に示すような同位体があり、セシウム 133 は安定同位体、セシウム 134、135、137 は放射性同位体です。

放射性のセシウムは、原子力発電の燃料であるウランの核分裂反応の際にできる放射性物質の代表的なものの一つです。核分裂の際にはセシウム 135、137 が、また原子炉内の反応によって

セシウム 134 が生成されます。その中でもセシウム 137 は比較的量が多く発生し且つ寿命（半減期）が約 30 年と長いことから特に代表的なものとして挙げられます。セシウム 137 は以下のような変化を起こして、最終的に安定な元素であるバリウム 137 へと変化します。

セシウムの化学的な性質は、動植物の細胞の中の液（細胞内液）に多く含まれているカリウムと似ています。従ってセシウムを人間が摂取した場合にはカリウムと同じように体内で動き、分布することになります。過去に大気中核実験などにより環境中に放出されたセシウム 137 が現在でも存在していますので、飲料水や農畜産物などを通して人間が摂取し、それらから放出される放射線によりわずかな量ですが被ばくしています。



このように環境中への放出があると長期間にわたって残存することから、セシウム 137 は原子力施設等では監視すべき主要な元素として位置づけられています。

ラジウム



ラジウムとは、**ウラン**がエネルギーを放出しながら崩壊していく過程でできる物質で、そのラジウムが崩壊したものを**ラドン**といいます。ラドンは自然放射線の半分以上を占めている無色・無臭のガス状の物質です。高濃度のラドンを含む地層を通った地下水はラドンを含んだ温泉水となり、ある一定量以上のラドンを含む温泉を法律で「放射能泉」としてい

ます。そしてラドンを多く含んだ放射能泉を一般的にラジウム温泉と呼ばれています。ラドンは放射線の中でも α 線を放射しますが、 α 線は γ 線や β 線と比べて非常に高いエネルギーを持っています。しかし、 α 線は紙も通れないほどに透過力が弱いので、体内に取り込んでも体外までエネルギーが出ていきません。そのため、細胞に直接大きなエネルギーを放射して強い刺激を与えることになるのです。ちなみに、体内へ入ったラドンの 50% は 30 分で消え、約 2 時間もたてばほとんどのラドンが尿などから排出されます。

2011 年度新河岸川流域フォーラムに参加して

大谷 恒子

2011 年度新河岸川流域フォーラムに今年 1 月 21 日（土）に参加しました。「つながる流域 ひろげる備え」というテーマで、浮間地区荒川防災ステーションで行われました。宮澤さん、加瀬さん、私の 3 名で色々なメニューを体験しました。午前中は、参加者全員が二つの班に分かれ、私たち A 班は先ず巡視船で①防災船着場（浮間橋下流）から出発して②旧岩淵水門、③岩淵水門、④荒川水門・新芝川排水機場、⑤新田リバーステーション、⑥新田地区スーパー堤防、と巡りました。③の岩淵水門は明治 43 年の大洪水で 10 万人以上の被災者が出、水が引



（新河岸川防災船着場）

巡視船「あらかわ号」に乗船

くのに2週間かかり、東京を水害から守るために大正13年に完成した②旧岩淵水門から老朽化のための役割を引き継ぐべく昭和57年に完成した。洪水時には、水門が閉まり、荒川の水が隅田川へ流入するのを防ぐ。

この岩淵水門は、今までに4回(H3, 11, 13, 19)閉められた。④の新芝川排水機場では、洪水時に新芝川の水をポンプの力で荒川に流し出す役目を担う。荒川に面している④芝川水門は、新芝川への洪水の逆流防止を目的に昭和47年完成。⑤の新田リバーステーションは、災害時における道路の混雑や寸断を想定し、被災後の復旧活動に必要な大量の建設機械、救援物資等を水上輸送するための拠点として、平成9年度から整備を進め、2011年に完成。(荒川のリバーステーション第1号)⑥の新田地区スーパー堤防は想定を超える壊滅的被害から、人口、資産が集中する大都市を未然に守るための事業。荒川と隅田川に挟まれた場所に位置し、足立区、北区の「住宅市街地整備総合支援事業」に合わせて整備が行われている。巡視船で荒川を巡った後、会場で土囊づくりの体験をしました。昼休みは、国土交通省制作のフィクションドキュメンタリー「荒川氾濫」の映画を見て、各参加団体のパネル等を拝見しました。

午後13:05からは、国土交通省・関東地方整備局の荒川下流河川事務所長小島優氏の挨拶があり、次に、公益財団法人えどがわ環境財団理事長土屋信行氏の講演「今、迫りくる大災害の危機」のお話がありました。明治43年の大洪水、昭和22年のカスリーン台風、同24年のキティー台風、同38年の狩野川台風等、幾多の風水害を経て、荒川の高潮護岸が整備されたお話等、大変興味深く聞きました。14時から5分間の休憩後、“水に関わる災害に向けた取り組みについて”の発表が関係諸団体からありました。

①東京都建設局河川部計画課(入澤氏)「白子川で取り組む豪雨対策について」、②埼玉県県土整備部河川砂防課(遠井氏)「埼玉県の雨水流出抑制対策について」、③北区まちづくり部道路公園課(米山氏)「北区における集中豪雨対策について」、④自由学園最高学部(中居氏、鈴木氏)「自由学園キャンパスの治水研究」、⑤新河岸川水系水環境連絡会(菅谷輝美氏)「いにしえに学ぶ、水



現岩淵水門 洪水時、荒川の水が隅田川へ流入を防ぐ。

収支」近年、増加傾向にあるゲリラ豪雨、洪水対策等についての、それぞれの取り組み方、対策等を大変詳しくわかりやすくお話し下さいました。最後は、パネルディスカッションでコーディネーターを土屋氏が、パネリストとして国土交通省荒川下流河川事務所の檜森氏が加わり、発表された他の5団体の関係者を含めて活発な意見交換が行われた。

一日にわたるフォーラムであったが、豊富なメニュー(土囊づくり、各団体のパネル展示、講演、パネルディスカッション、映画上映など盛り沢山)であったという間に時間が

すぎました。昨年の3.11の地震・津波による大災害、台風15号等による風水害と特に昨年は多くの災害が日本を襲い、まだ本当に記憶に新しく、他人事と思えないので、このフォーラムは大変興味深く、いろいろと勉強になりました。折角の機会であるため、もっと多くの方が参加されると良いのにと思いました。

1,000 m²の空き地に樹木苗を植栽

宮澤 とよ美

時には思いがけない夢のようなことが現実となります。前号にもお知らせしましたが、都の中里緑地A地区につながる空き地240m²を是非緑化したいと思い、昨年9月無理を承知で地主粕谷様宅を伺いました。世間話などしておりましたが、だめだろうな一と思いつつも、「三郷橋近くの空き地に植林をさせて頂けませんか」思い切ってお願ひすると、「家族に聞いてみましょう」と希望のあるお返事。厚かましく「道路を挟んで向かい合わせになる大きな空き地もできましたら……」と。昔からこの辺りは山地性の大変植生の豊かな場所。林になればきっと再生可能です。

ご了承いただいた時、夢でなければという思いでした。渋谷氏と副市長にお世話になり、緑化された後は、清瀬市の緑地保存林に指定が検討されます。運よく、クヌギ・コナラの苗木が都市整備部長のお蔭様で入手でき、240m²は自然を守る会で植栽。大きい方はご無理ということで、空堀川に沿う1000m²は川づくり・清瀬の会が植栽依頼をされました。

当会はこれまで可能な限り河川用地の緑化活動をしてきました。今回はまったくの更地、それも空堀川に沿って林を作るなどということは、自然保護活動を始めて以来のこと、地主さんのご理解があつての実現、感謝致します。戦後雑木林の開発を見続けてきただけに、新たな林を造る喜びは計り知れません。

2月13日の夕刻金内氏と市役所へ出向き、植栽のお話ここから始まりました。幹事会の皆さんにお諮りしましたところ、力強く「やりましょう！」のお声を聞き、その日から手配に走り回りました。クヌギ・コナラの苗は用意していただけても、もう狭山丘陵にオオムラサキのニュースを聞いて以来、何時かは清瀬にもと思ひ少しの苗はありますが、1000m²分はとてもなく、まず苗の手配、購入苗代のこと、道具のこと、人手のこと…。植栽時期は根の働きが弱くても、葉が落ちている間の蒸散作用が少ない芽出しの前、3月中旬までに植えてしまわなくてはなりません。そこで植栽日を3月10日と決めました。

記念すべき植樹の事業です、なるべく多くの皆さんと喜びを分かち合いたい。そして誰でもが誇りを持ち、皆の林として愛しみ育ててほしい。まず清瀬四中に、そして河川を緑化したいという思いの北々建四市流域連絡会の皆様、清瀬市民の皆様と呼び掛けをいたしました。幸いエノキの苗は地主さん・当会有志・企業さん・ロータリークラブ・

自然を守る会有志・そして平素大変お世話になっている校長先生・都・市に関わる役職の皆様・パルシステム東京の暖かいご寄付で55本を整えることが出来ました。

植栽地はかつての田に盛り土をしたもの土壌が硬く、25日空堀川の清掃と平行して、前日に石灰でマーキングをしておいたところに、矢島氏・増田氏にユンボで3m間隔に穴を掘って頂きました。3月6日環境課から腐葉土80箱を持ち込んでいただき、8日には緑地公園課皆様にクヌギの苗60本をご用意いただきました。その間、幹事の皆さんを中心に、不安定な天候の合間を見て植栽用意のための作業が連日続きました。

3月10日（土）朝から冷たい雨の中、50名を超える皆様にお集まりいただき、9時30分、副市長、北々建第二課西村課長、粕谷地主さんにご挨拶を賜り、80歳を超える植木屋さんに植栽指導を頂きながら作業が始まりました。先生に引率されてご参加の四中の生徒さん、苗木をご提供くださいました皆様、空堀川上流の皆様、当会の大江さん、戸塚さんもおみ足が悪いのにどなたも泥んこで植えてくださいました。手足が凍えるほどの冷たさでしたが皆様の明るい笑顔が印象的でした。多くの方のお世話になり、思いのこもった林になります。関わってくださいました皆様、心から御礼を申し上げます。



皆様ありがとうございました



頑張って下さった四中生徒さん

- ◆5月6日（日）町田家から竹を頂き柵の修理と、エノキ・クヌギの樹高を計測いたしました。又、ごみ減量推進課から腐葉土20箱をいただきました。

エノキ 55本 101～158cm

クヌギとコナラ 55本 136～297cmです。

芽出し早々のエノキには、オオシマカラスヨトウ他の幼虫が多くつき、ひとまず大木に移しました。

- ◆5月11日（金）草本調査。一面カラスノエンドウの這い回る間から、アカザ・アメリカフウロウ・アメリカセンダングサ等の他 51種が確認できました。樹木の成長と共に植相の変遷もまた楽しみです。植栽木全てが根付くことは難しく、様子を見て根付かない木があれば、皆様で楽しみながら、今ある苗木を捕植等、維持管理をして行きたいと思えます。どうぞよろしくご協力お願い申し上げます。

植樹の感想

清瀬第四中学校生徒

雨の中、清瀬第四中学校から大勢の生徒さんが手伝いに来てくれました。その時の感想を書いていただきましたので、紹介したいと思います。(望月基子)

今回、国蝶オオムラサキを呼ぶための植樹をして、雨の中大変でしたが、とても貴重な体験となりました。何年後になるか分かりませんが、私たちが植えた木に、オオムラサキがたくさん来てくれることを願っています。きっとその時は植樹をした場所が有名になっているので、皆さん、きれいな国蝶をぜひ見に来てください。

2年B組 松村 日菜子

僕は前から虫が好きで、卓球部として植樹にいかなくても自分で進んでいったと思います。大雨の中での植樹でしたが予想していたよりも楽しく、オオムラサキのためにがんばった後の芋煮もすごくおいしかったです。また自然に関係するボランティアがあれば、積極的に参加したいです。

2年B組 久保田 匠

雨の中植樹をして泥だらけになったけど、全部植え終わった時とても気持ちよかったです。これから、たくさんのオオムラサキがくるといいです。今回植樹した所で、飛んでいるオオムラサキを私も見たいです。

2年B組 弘中 智恵



四中の生徒さんは、昨年に引き続き 6/3(日)の新河岸川・
全国一斉水質調査に協力していただきます。

第 14 回定例総会の報告

大谷 郁夫

4月26日(木)清瀬市民活動センターにおいて、川づくり・清瀬の会の第14回総会が開催され、新メンバーを含め24名が出席した。

総会では、前年度の活動実績報告及び平成24年度の事業計画、決算及び予算(案)並びに会則の改訂(案)等について諮られ審議の結果、各議案とも全員一致で承認された。

以下に総会の要点について報告致します。

(1)河川環境保全の提言

河川改修に伴い、生態系を壊さず、緑化などいわゆる自然保護に配慮された工法を目途に、平成12年度の会の発足以来、特に柳瀬川、空堀川新合流点の工事に対し、河畔林、天然護岸に配慮した施工提案を毎年、会の重点課題として掲げ、諸活動を行ってきた。その結果、平成24年3月につくば実験センターにおいて、東京都(北北建)による「水理模型実験」の見学を行うまでになりました。その結果、いよいよ平成24年度は本工事に向けての最終段階に入るため、引き続き、河畔林保護を継続して提案することになっている。また、これに伴い治水に配慮しながら河川内外の樹木が保全できるよう樹木ルールの提案活動も行われた。

(2)良い河川環境・景観を目指した諸活動

良い河川環境・景観を目指した諸活動が行われており、毎年5月、6月及び7月に大きなイベントが続いており、会としても積極的に参加している。

①「第4回環境フェア」に参加

第4回環境フェア(5月22日)では、柳瀬川に生息する魚を捕獲し、水槽に入れた魚の展示(ミニ水族館)や新合流点(パネル展示)を行った。スタンプラリーにも参加。

②「新河岸川流域・全国一斉水質調査」に参加

水循環系の傾向、課題、取組の効果を把握し、今後の水循環再生計画に繋げることを目的とした全国規模で毎年6月に一斉水質調査が行われており、当会も発足以来、毎年参加している。6月5日に空堀川及び柳瀬川で水質調査を実施した。調査結果は会誌(第15号)参照。

③「第4回きよせ川まつり」に参加

川まつり(7月23日)では、子供達の川遊びをバックアップするとともに、柳瀬川の魚の展示(顕微鏡による川の微生物、生き物観察)やペットボトルによる筏の作成を行い、筏コンテストにも参加した。

(3)調査研究及び講師を招いての勉強会

助成金による事業として、今年度は「パルシステム東京」による支援をいただき、著名な先生を講師として招き、2回の講演会を実施した。

1回目は10月5日に清瀬市民活動センターにおいて、動物・植物プランクトンを

顕微鏡を使つての「プランクトン観察・勉強会」を実施した。講師にはプランクトン・ウォッチャーこと小田部家邦氏（元、警視庁科学捜査官・六都科学館講師）を迎え、開催した。引き続き、2回目は1月28日、清瀬市中清戸地域市民センターにおいて、「水辺の自然を生かした川づくり（誰もが親しめる河川を求めて）」をテーマに講演会を実施した。講師には河川の第一人者である島谷幸宏氏（九州大学・大学院教授）を迎え、開催した。参加者は約80名と盛況であった。

(4)「いい川づくりワークショップ」に参加

いい川・いい川づくり実行委員会主催の「第4回ワークショップ」が9月24日、25日の2日間にわたり、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。本ワークショップには北海道から沖縄までの川に関する全国38団体が参加し、全体の発表会、テーブル選考、最終選考が行われ、当会は、柳瀬川の河畔林をテーマに掲げ、上位入選を果たした。（下里中の大竹君を含む8名が参加）次年度も参加の予定。

(5)河川の清掃作業

年2回の市内一斉清掃を含め、年6回の清掃を計画・実施したが、2回の一斉清掃が雨天により中止となった。なお、清掃と並行してブタクサ抜き作業も行った。

(6)他団体との係わり

空堀川、柳瀬川の流域連絡会、新河岸川流域川づくり、埼玉県土・水辺再生交流会などとお互いに情報交換会等を随時実施した。

(7)会誌の充実化

会誌を年3回発行している。（5月、9月、1月）会誌の充実化を図るべく、活動内容を多く掲載している。また、会の活動を広くPRする必要から、10月15日付で会のホームページを立ち上げた。（会誌内容：閲覧可）

総会后、第一回講演会として清瀬市の昔の道や川の様子について、坂間英男氏を講師に迎え、勉強会を実施した。特に柳瀬川の金山橋の今昔話がおもしろく、時間を忘れるほどの内容であった。

2012年度 事業計画

- 1、新合流地点の河川改修にともない、河川環境を保全するための提言
 - *新柳瀬川改修工事に対し、水理実験を踏まえ河畔林保護を継続して提案。
 - *新河川用地の緑化を推進し、植栽木の樹種の提案
- 2、会誌の発行（年3回）
- 3、エノキ・クヌギ・コナラ植栽地の維持管理作業
 - *今年は根付くまで、つる草などの除草及び、定期的な植生調査と成長記録
- 4、第5回川まつりに参加

- *ミニ水族館・川のプランクトン観察 水質調査 川を知るための簡単なクイズ或いはアンケート(社協の補助によりライフジャケットの追加購入)
- 5、第5回環境フェアに参加
 - *ミニ水族館・川のプランクトン観察および魚紹介とパネル展示
- 6、清瀬ふれあいまつりに参加
 - *柳瀬川の魚紹介とパネル展示
- 7、調査研究と学習会
 - *講師を招いて勉強会
 - *定点川の生き物調査と河川や植栽地の植生調査
 - *柳瀬川流域・全国一斉水質調査に参加
 - *近隣河川の見学・河川を歩いて学ぼう
 - *各種シンポジウムへ参加
 - *いい川・いい川ワークショップに参加
- 8、河川の清掃作業
 - *河川の清掃(6回)と外来種対策(オオブタクサ・セイバンモロコシ)
 - *5月・11月市内一斉清掃に参加(11月は河原にて芋煮会)
- 9、環境学習への係わり
 - *サタデースクール・総合学習等、環境教育への係わり
- 10、会員相互の親睦
 - *新年会(1月)、お花見(3月下旬か4月上旬)

2012年度 活動予定

- 第5回 環境フェア参加 5月20日(日) ころぼっくる・神山公園
 - *環境フェア実行委員会参加と展示の用意
- 会誌の発行 年3回 5月第17号 9月第18号 1月第19号(編集委員会)
- 市内一斉清掃 6月3日 11月初旬(11月は芋煮を予定) 雨天中止
- 柳瀬川流域・全国一斉水質調査 6月3日(日) 13:30~ 雨天決行
- 水質調査結果のまとめ 7月7日(土) 野塩地域センター 6:00~9:00
- 河川清掃と帰化植物対策 年6回(6月 7月 9月 10月 12月 2月)
- 河川生き物調査 5月(環境フェア時) 7月(川まつり時) 9月
- いい川づくりのための勉強会
- 河川の見学 昨年に続き柳瀬川の源流見て歩き
- 河川及び樹木植栽地の植生調査 (5月 7月 8月 11月)
- 第5回きよせ川まつり 7月28日(土)
 - *川まつり実行委員会参加と展示の用意

- 水草の調査と勉強会（新河岸川水系環境連絡会主催） 8月19日
- 空堀川・柳瀬川流域連絡会 第6期任期2年の後半会議
- 川づくり・清瀬の会 幹事会 毎月原則第1木曜日 1:30
- ダイオキシン市民協 幹事会 毎月第2水曜日 10:00
- 市民活動センター 総会 5月12日
- 市民活動センターバザー 市民活動団体紹介(ミニ水族館)
- 清瀬ふれあいまつり 11月23日(金・祝) コミュニティプラザ全館
*ふれあいまつり実行委員会賛歌と展示の用意
- 新河岸川流域連絡会主催フォーラム 1月か2月
- 親睦会 *新年会1月 *花見、桜の開花状態を見ながら(昼間に予定)

2011年度 活動記録 (1月～3月)

- 1月 5日(木) 第9回幹事会(会誌原稿、島谷先生講演会、今後の予定) *参加9名
- 1月15日(日) 編集委員会(会誌第16号の作成) *参加6名
- 1月16日(月) 第7回空堀川、柳瀬川流域連絡会(樹木管理ルール)
- 1月19日(木) 会誌の最終点検並びに印刷・発行 *参加8名
- 1月21日(土) 新河岸川流域フォーラム(浮間地区荒川防災ステーション)(北赤羽)
主催:新河岸川流域川づくり連絡会 *加瀬、大谷(恒)、宮澤
- 1月25日(水) 新合流点、設計施工進行説明を受けに北々建 *宮澤
- 1月26日(木) 講演会の準備(会場確認ほか) *宮澤、加瀬、木村、大谷(2)
- 1月28日(土) 島谷幸宏・講演会(水辺の自然を生かした川づくり)
(中清戸地域市民センター2階会議室)【パルシステム東京支援】
*参加 80名(会員24名、会員外56名)
(夕方)新年会(やるき茶屋) *参加 19名
- 2月 2日(木) 第10回幹事会(24年度総会に向けて、外部イベントほか) *参加8名
- 2月 4日(土) 水辺再生交流会(浦和市民会館)
- 2月 7日(火) 放射線の危険性について(東京農工大学・渡部氏) *木村、宮澤
- 2月 8日(水) 清瀬ダイオキシン対策等市民協議会 総会 加瀬、大谷、宮澤
- 2月11日(土) 森永乳業多摩工場見学(東大和市) *工場排水を空堀川へ流すシステム
の見学(空堀川を清流に取り戻す会主催) *木村、大谷(恒、郁)
- 2月13日(月) 市から三角地への植栽依頼 *宮澤、金内
- 2月14日(火) 第4回新河岸川流域川づくり連絡会(国交省)野塩市民センター
*宮澤、加瀬、大谷(恒)
- 2月22日(水) 第8回空堀川、柳瀬川流域連絡会(樹木管理ルール、つくば・模型実験)
- 2月24日(金) 環境フェア実行委員会(24年度ポスター、実施要領)

- 2月26日(日) 空堀川の清掃(梅坂橋)及び三郷橋横の空き地の植栽準備作業
*松崎、小西(2)、福田(2)、菅原(2)、大谷(2)、大竹、加瀬、宮澤、田中、戸塚、田島、原、(植栽作業) 矢島、増田
- 3月 1日(木) 第11回幹事会(空き地の植生、総会、模型実験の参加ほか)参加9名
- 3月 3日(土) 日本の「いい川シンポジウム&研修会」 虎ノ門発明会館
ポスターセッション出展 *宮澤、加瀬、大谷、金内、大竹
- 3月 6日(火) 植栽準備作業(環境課より堆肥)宮澤、加瀬、大谷(恒)、金内、木村
- 3月 8日(木) 植栽準備(薪拾いほか)緑地公園課 クヌギ苗60本搬入頂く
*宮澤、加瀬、大谷(恒)、木村、金内、田島
- 3月10日(土) 植栽作業(エノキ、クヌギ、コナラ)
*中沢副市長、西村課長(北北建)、地主(3)、庄司、坂間(東京清瀬ロータリークラブ)、福島、松下、岡本、竹野、松尾、小間、小林、平田、国田、大橋、[清瀬四中:長谷川、中根(拓、純)、水村、和田、佐藤、山川、久保田、山下、松村]、土手塚、斉藤実、渋谷(信)、市川、酒井、松岡、井澤、西川(鮎)、弘中(智)、中村(重)、高田、菅原(英、裕)、戸塚、望月、加瀬、田中、原、木村、大江、金内、宮澤(3)、大谷(郁、恒)
- 3月12日(月) 柳瀬川、空堀川新合流点付近水理模型実験見学会(つくば実験センター)
*宮澤、正木、藤岡
- 3月14日(水) 柳瀬川、空堀川新合流点付近水理模型実験見学会(つくば実験センター)
*戸塚、加瀬、田中、木村、金内、大谷(郁)
- 3月22日(木) 4市流域連絡会 *宮澤、戸塚、小西
- 3月28日(水) 渋谷市長との話し合い(樹形、合流点について) *宮澤、加瀬

📞 事務局だより 📞

今年度の新役員は以下の通りとなりましたので、よろしくお願い致します。なお、行事その他の役割分担については、総会時に報告し、ご承認いただきました。

■新役員名簿

- ◇会 長 宮澤とよ美
- ◇副会長 田島 通夫 戸塚 弘
- ◇事務局 大谷 郁夫
- ◇会 計 加瀬 静江 田中くに子 金内 彰
- ◇幹 事 大谷 恒子 木村 芳信 船木 淳 原 剛 朝日 君子
野村 勝則
- ◇アドバイザー 小林 寛治 原 剛
- ◇会計監査 藤岡 純 大友 芳子

■新会員紹介

○丸山 隆様 (中里1丁目在住) どうぞよろしくお願ひ致します。

◆◆ご寄付のお礼◆◆

下記の皆様から植栽時にご寄付を賜りました。お礼申し上げます。
(株)東所沢スポーツクラブ様、東京清瀬ロータリークラブ様、
湯浅恒一様、坂間英男様、匿名2名様

◇行事予定のお知らせ

☆空堀川の清掃

*日時 6月23日(土) 9時~11時

*集合場所 梅坂橋親水階段前

☆第5回川まつり

*日時 7月28日(土)

*場所 柳瀬川(台田運動公園前)

編集後記

前16号発行以来、1月に柳瀬川・空堀川新合流点の河川環境保全を目的とした講演会、そして3月には飛び入り事業として三郷橋空き地に約100本の樹木苗を植栽いたしました。どちらも会員皆様の大きなご協力により、よい成果を得られましたこと今号にご報告しております。ありがとうございました。

今年度も4月26日皆様のご参加を得て総会が開催され、多種のイベントや河川清掃などの活動が始まります。どうぞ会員皆様のご協力、ご参加をよろしくお願ひ申し上げます。

また、唯一の交流誌として、会誌へのご投稿を心からお待ち申し上げます。



川づくり・清瀬の会 事務局 大谷方
〒204-0004 東京都清瀬市野塩 1-156-5 401
電話番号 042-495-9052 e-mail irotani@live.jp
ホームページ <http://kawadukurikiyose.web.fc2.com/>